

先進的事例（就職支援）：日本への就職意向を高めるコミュニティの設計

実施機関名：大学コンソーシアム京都

就職困難留学生を支援する留学生就職支援・交流コミュニティを創設する。

KyoTomorrow Academyが支援対象とする就職困難留学生の特徴

- 就職意識・就活スキルが低い
情報不足（相談相手が少ない）
- 大企業志向が強く、企業情報が少ない
選択肢が少なく大企業のみを受験
- 日本語能力が低い（英語基準等）
日本語への不安からくる、就職活動への不安

「就職困難学生の課題」

- 就職活動に関する知識・スキルの習得に一定時間がかかる
⇒ 継続的な関わりを築くことが必要
- 多様な価値観を習得する機会が少ない
⇒ 様々な人・企業との交流の機会が必要
- 自己のキャリアのアウトプット
⇒ 日本語での表現が必要（日本語習得）

◇事業の目標

コミュニティの多様な交流を通して、

- ・ 継続的な関わりを築く
 - ・ 学びあいの場を形成する
 - ・ 就職活動への不安を解消する（就職活動の知識・日本語の習得）
 - ・ 京都地域への愛着（企業・地域）を深める
- ⇒ 京都地域での就職活動をサポートする



交流支援

一人ひとり顔の見える継続的な関係性を築き維持する

取組：留学生と日本人学生との交流会
企業訪問・見学ツアー など

日本語学習支援

日本語運用面の不安を解消し日本語を使った勉強会を実施

取組：日本語スタディグループBN2
ビジネス日本語講座 など

就職支援

企業・行政機関と連携し、留学生の就職活動を多方面からサポートする

取組：就活チームCareer Café Compass
就職セミナー、企業面談会 など

様々なラインナップの取組で、コミュニティ参画の機会を創出

2017年度 イベント回数 **59**回（週1回ペース）

コミュニティを維持するための取組事例

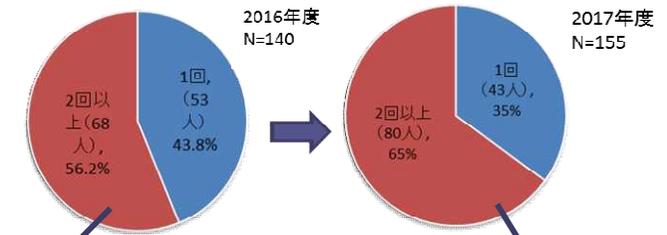
- ・ 活発な連絡交換
コミュニティの参加者とは、SNSやメールも活用し、密に連絡を行い関係を構築。
- ・ 体験型イベントの定例開催
文化体験・企業見学など様々なイベントを定期的に行うことで、留学生の興味や探究心を刺激し、継続的な参加を促すことで、コミュニティへの定着化をはかる
- ・ 学生参画
一部の企画にて学生スタッフを配置。企画の立案・運営を行い、学生と同じ目線の事業を行うことにより支援活動全体の活性化・体制補強をはかる

◆KyoTomorrow Academy登録者数

	H28	H29
登録者数	140人	155人
(出身国の数)	(25か国)	(34か国)

◆事業の成果

コミュニティ活動に継続的に参加する留学生の割合



3回以上：51.4% (35人)

3回以上：63.8% (51人)

継続的参加者数の増加に伴い、内定者数も増加

H28年 **21**人 ⇒ H29年 **40**人

継続的かつ多様な双方向の交流が可能な
コミュニティ型の就職支援スタイルを採用

